

映画産業の発展と邦画の世界進出

情 橋本 みなみ
指導教員 宋 財法

1. 概要

本研究は日本の映画が、海外市場において成功するためにどのような要素が必要であるかについて明らかにする。2024年3月『ゴジラ-1.0』(2023)が日本の作品としては初めて米国アカデミー賞の視覚効果賞を受賞し、ジブリの宮崎駿監督作品『君たちがどう生きるか』(2023)がアニメーション映画賞を受賞したことで、日本映画の国際的評価が再び注目された。しかしこうした成功にもかかわらず、日本映画は実写映画を中心に国際市場での存在感が薄い現状が課題として浮き彫りになっている。

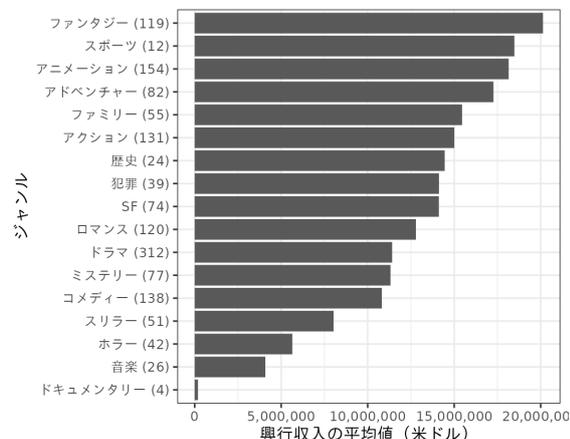
兼子(2015)は邦画の興行収入と作品評価に影響を与える要因を検討しており、その結果、興行収入に強い影響を及ぼすのは「上映時間」「ジャンル」「テレビドラマシリーズ」であることを明らかにしている。一方で、作品評価については、映画内の興奮要素、笑い要素、泣き要素が評価を高めることを示し、特に泣き要素が重要な役割を果たしていると結論づけている。この研究は邦画の成功要因という観点で有用だが、海外市場で成功するための要因には言及していない点が課題として挙げられる。本稿では映画のジャンル、海外との共同制作の有無、年齢制限、アイドル出演の有無、世界興行収入、評価点数などに基づいて、日本映画が国際市場で成功するために必要な戦略を検討する。

2. 研究方法

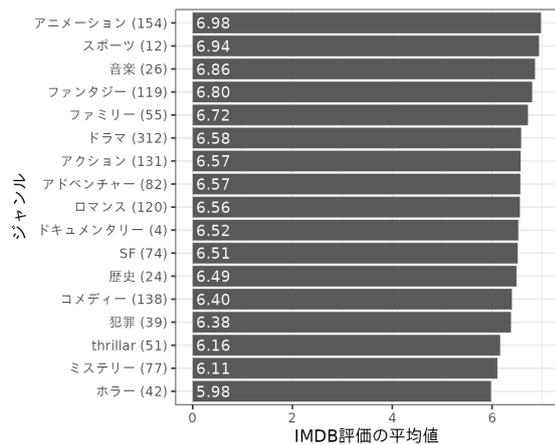
データは映画の公式データベースや、海外の映画評価サイト IMDb から収集した。サンプル数は2014年から2023年の期間にランダム抽出した500作品である。

収集項目はジャンル(音楽、犯罪、歴史、ロマンス、ミステリー、ホラー、ファンタジー、ファミリー、ドラマ、ドキュメンタリー、スリラー、スポーツ、コメディ、アニメーション、アドベンチャー、アクション)、共同制作の有無、年齢制限(R18、PG12など)、アイドル出演の有無、興行収入、評価点数である。興行収入はドル単位で記録し、評価点数には IMDb スコアを用い、年齢制限は R18 や PG12 などのカテゴリ変数として扱っている。

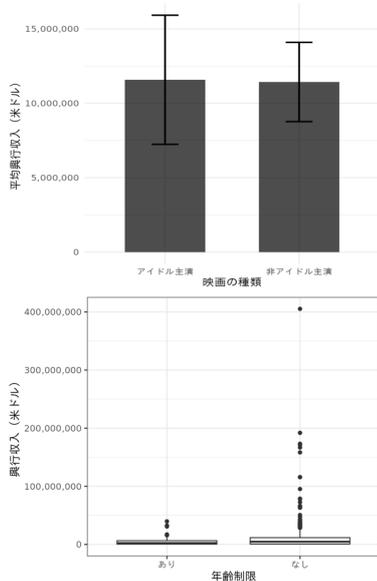
3. 分析結果



映画のジャンルと興行収入の関係を分析した結果、アニメーションは評価点と興行収入の両面で高い数値を示しており、ファンタジーやスポーツといったジャンルも高収益を記録している。特に、日本独自の感性が反映されたファンタジー映画が、高い興行収入に結びついていると考えられる。一方で、スリラーやホラー映画の収益性は低いことが分かる。日本ではスリラーやホラー映画の制作が得意でない、または興行収入が見込めないため制作数が少ないと推測される。



また、映画のジャンルと IMDb 評価の平均値の関係を分析すると、アニメーション、スポーツ、ファンタジーといった高評価のジャンルは、収益性も高い傾向が見られた。特にアニメーションは平均評価点が 6.98 と最も高く、興行収入においても高い収益を上げていることが確認された。また、普遍的なテーマを持つジャンルは評価点数が高いことも明らかとなり、具体的には、アニメーション (6.98)、ファミリー (6.72)、ファンタジー (6.80) といったジャンルが高評価を得ている。これらのジャンルは化を越えて共感を呼ぶテーマを持つため、評価の高さに繋がっていると考えられる。



アイドル主演映画と非主演映画の興行収入間には統計的に有意な差は確認されなかった ($p = 0.954$)。したがって、アイドル主演の有無は興行収入に実質的な影響を及ぼしていないと結論づけられる。続いて、年齢制限と興行収入の関係を t 検定で分析した結果、統計的に有意な差が確認された ($p < 0.001$)。これは全年齢向け映画の方が幅広い観客層にアピールできるため、興行収入が高い傾向にあることを示唆する。一方、年齢制限がある映画は収益性が低いものの、一部の作品では高い評価を得ている場合もあった。さらに、共同制作と国内単独制作間の興行収入にも統計的に有意な差が確認された ($p = 0.020$)。したがって、国内単独制作映画の方が興行収入で優れていると結論づけられる。しかし、海外市場への展開を考慮すると、共同制作の持つマーケティングや配給の利点を活用する余地があると考えられる。

4. おわりに

日本映画が海外市場で成功するためには、文化的背景を超えて共感を得られる普遍的なテーマを持つジャンル (アニメーションやファンタジー) を選定すること、全年齢向けの映画を制作して幅広い観客層にアピールすること、および国際的な配給力を活かす共同制作を適切に活用することが重要である。また、物語やテーマの質を向上させることで、アイドルなどキャストの影響に頼らず、国際市場での競争力を高めることが重要である。

参考文献

- 兼子良久. 2015. 「邦画の興行収入と作品評価への影響要因に関する考察」『鹿児島経済論集』 55: 75-95.